

第1部 (調査報告・討論)

新課程における 学校でのICTの活用状況と 今後どうあるべきか —英語教育から考える—

ベネッセ教育総合研究所
教育基礎研究室
岡部 悟志

このパートでは、まず「学校でのICT活用の現状」をおさえた上で「英語指導での特徴やみえてきた課題」を整理したいと思います。

＜報告で用いる全国の教員調査データ*の特徴＞

1. GIGA構想元年だった昨年（2021年）との比較により、GIGA 2年目の今年（2022年）の学校の指導がどのように変化したかがわかる。
2. 中高教員には担当教科を尋ねており、教科別の取り組みの違いがわかる。

*「学習指導に関する調査2021・2022」(ベネッセ教育総合研究所)

- 内容：ふだんの授業や宿題で行っていること、ICTの活用や効果実感など
- 方法：全国から無作為に抽出した学校を通して現場教員に回答してもらったweb調査
- 時期：8月末～9月中旬
- 対象：小中学校（公立のみ）・高校（私立含む）の学級・教科担任の先生
- サンプル数：（2021年）小学校2,125名 中学校2,264名 高校3,214名
（2022年）小学校2,884名 中学校2,413名 高校3,153名

※調査結果（2021年）はベネッセ教育総合研究所のHP(<https://berd.benesse.jp/>)で公開しています。

※2022年の結果の詳細については、2023年2月ごろ公開予定です。

1. 学校でのICT活用の現状

- (1) 授業でのICT活用は日常化。小学校がリードし、中学校が続く。
- (2) 高校での活用も増えているが、1人1台端末の整備が小中に比べて遅れている。
- (3) この1年で、「協働的な学び」におけるICT活用と教員の成果実感に伸び。
- (4) 少数だが、ICTを活用した新しい指導や学びが生まれつつある。

2. 英語指導での特徴やみえてきた課題・論点

- (1) 他教科と比べて、デジタル教科書は指導者・学習者とも充実。
- (2) 教員は活用しているものの、子どもの活用は伸びず。
- (3) 協働的な学びの全体的な広まりの中で、英語教員の成果実感は高どまり。
- (4) ICTを活用した新しい指導や学びの兆しが見られるものの、期待されている遠隔授業の実施は1割前後にとどまる。

学校の授業におけるICT活用はますます日常化 小学校(特に高学年)がリードし、中学校が続く

授業で「教員」が活用 (半分程度～毎回の授業)

授業で「児童・生徒」が活用 (半分程度～毎回の授業)

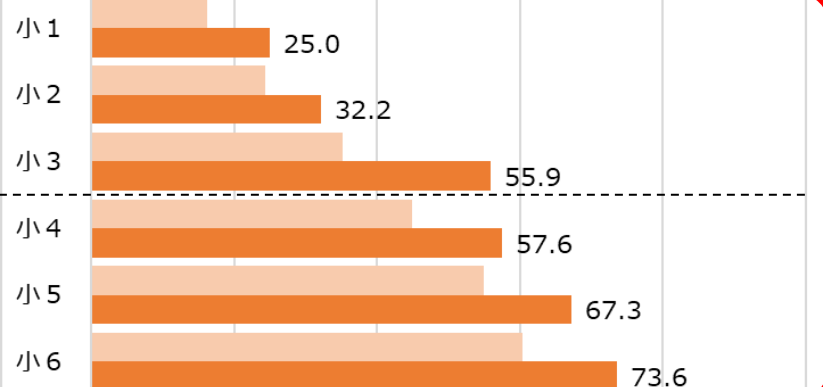
2021年 2022年 (%)

2021年 2022年 (%)

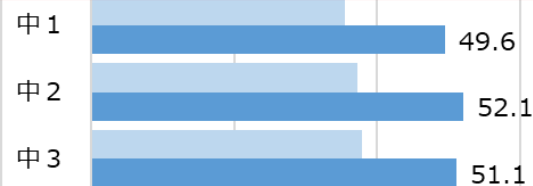
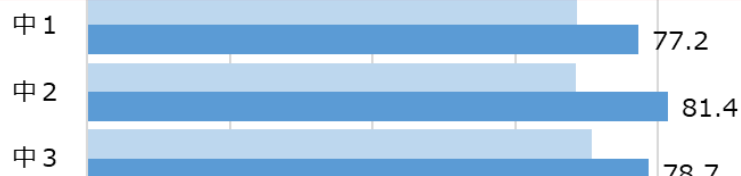
0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100

小学校



中学校



高校

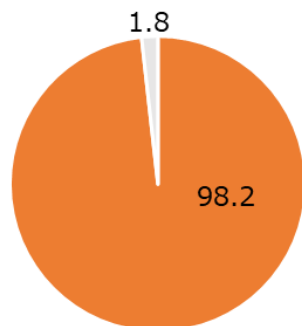


※「半分程度の授業～
毎回の授業」で使用している%。

小中学校(公立)ではほぼ100%なのに対して、高校は6割にとどまる

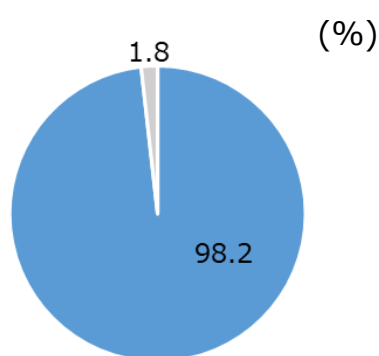
1人1台端末（パソコンやタブレットなど）の導入が
完了している（小学校）（%）

小学校



1人1台端末（パソコンやタブレットなど）の導入が
完了している（中学校）（%）

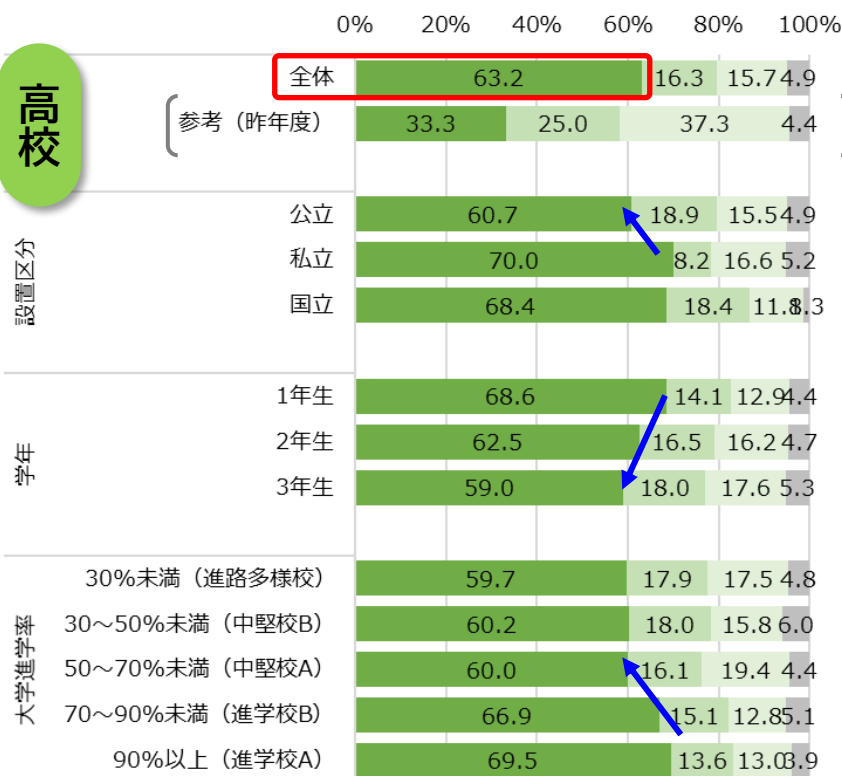
中学校



高校での1人1台端末の整備状況

- 1 生徒1人に1台の可動式の専用端末がある
- 2 生徒数人に1台の可動式の共用端末がある
- 3 専用教室（コンピュータ教室など）に設置された共用端末がある
- 4 その他

高校



「グループや学級全体での発表・話し合いを行う」など 協働的な学びでの活用が大きく増加

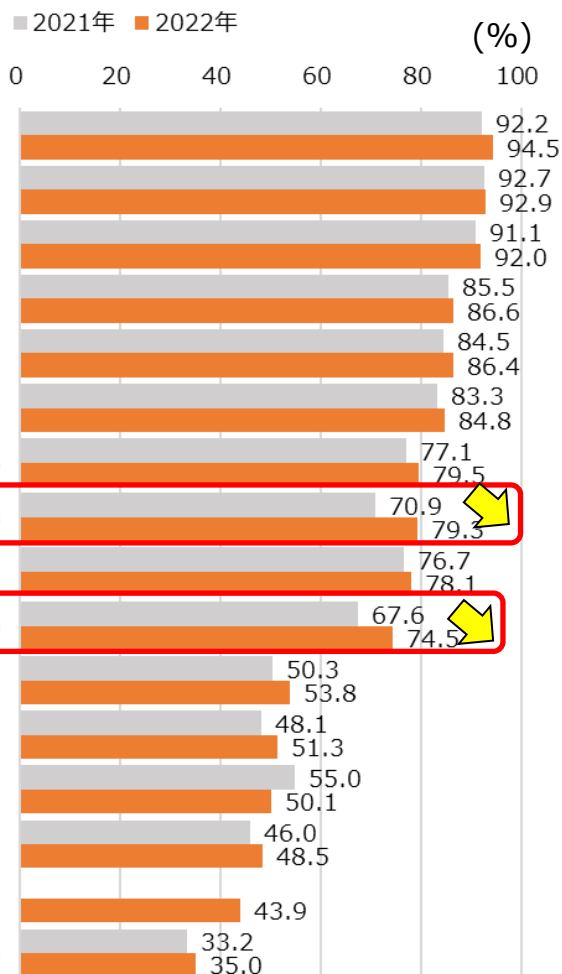
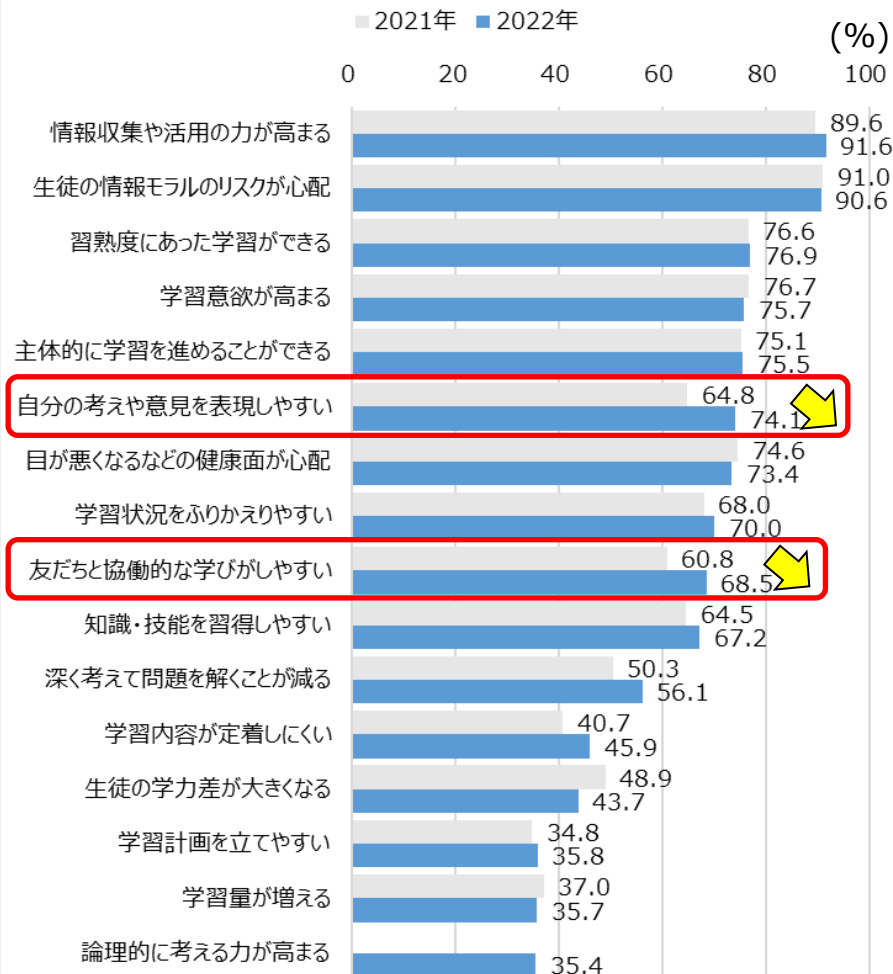
(%)

	小学校			中学校			高校		
	2021年	2022年	差	2021年	2022年	差	2021年	2022年	差
計算や漢字などの反復的な練習を行う	52.2	63.9	11.7	27.9	33.2	5.3	23.2	25.8	2.6
インターネットを用いて情報収集を行う	74.7	77.1	2.4	71.0	76.4	5.4	65.3	68.6	3.3
写真や動画を撮影して学習に活用する	77.9	84.8	6.9	48.4	55.9	7.5	43.5	47.5	4.0
シミュレーション(動画や3D映像など)を用いて理解を深める	45.7	48.3	2.6	39.9	45.0	5.1	35.1	38.6	3.5
資料を作成したり、作品を制作したりする	46.5	56.0	9.5	46.5	56.5	10.0	44.4	47.8	3.4
グループでの分担、協働による作品の制作を行う	29.5	39.4	9.9	35.0	46.8	11.8	33.7	36.7	3.0
複数の意見・考えを議論・整理する	40.1	49.8	9.7	47.1	58.2	11.1	35.9	41.7	5.8
グループや学級全体での発表・話し合いを行う	47.8	59.2	11.4	52.1	65.5	13.4	40.1	45.7	5.6
遠隔地や海外の学校の児童などと交流する	6.8	7.5	0.7	5.3	6.1	0.8	8.9	9.2	0.3
学習した成果や考えたプロセスを記録・保管する	44.2	51.5	7.3	33.7	40.8	7.1	38.5	41.5	3.0
習熟度に応じた課題に個別に取り組む	44.3	51.8	7.5	26.2	32.9	6.7	26.8	26.7	-0.1

※「よく行っている+ときどき行っている」の%。

※2022年と2021年で、10ポイント以上増加しているものを橙色、
5ポイント以上増加しているものを黄色で網掛けしている。

「自分の考えや意見を表現しやすい」「友だちと協働的な学びがしやすい」が10ポイント前後伸びている

1人1台端末の「児童」にとっての効果 **小学校**1人1台端末の「生徒」にとっての効果 **中学校**

「一斉指導」「協働学習」「個別指導」の実現度はいずれも上昇
 「協働的な学習」は「個別指導」よりも実現度が高く、変化の幅も大きい

1人1台端末指導の現在の実現度 小学校

■全体 2021年 ■全体 2022年 (%)

0 20 40 60 80 100



1人1台端末指導の現在の実現度 中学校

■2021年 ■2022年 (%)

0 20 40 60 80 100



※「かなり実現している+まあ実現している」の%。

少数だが、デジタルを活用したこれまでにない指導や学びが現場で生まれつつある

学校におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）

①これまでの指導や学びをデジタルへ置き換えるレベル

②これまでの指導や学びを根底から変化させ革新をもたらすレベル

※高橋純(2021)「はじめての授業のデジタルトランスフォーメーション」等を参考にベネッセ教育総研で学校DXの段階を大きく2つに分けた。
※各コメントは「ICTが学校現場に浸透したことによる成功事例」への教員の回答例。バブルの大きさは大まかな件数をあらわす。

- ・板書用教材を作成しなくてもデジタル教科書に分かりやすいものがあり、教材作成の時間が減った。
- ・文書の作成や共有ができるようになり、印刷をしたり、会議文書を帳合したりする手間が省けたこと。成績処理や通知表作成などが手書きよりも楽にできる。
- ・授業の中で、課題が終わってしまった児童から机上のタブレットでドリル練習ができ、すき間時間に読書以外の学習の選択肢が増え、復習が出来るようになった。
- ・その他多数

・発言が控えめな児童がタブレットの文字入力では饒舌になり、皆の賞賛を得た。

・挙手や発言をしないがよく考えている子の意見を可視化でき、授業の流れに採り入れられるようになった。

・子ども同士の教えあいが多くみられるようになった。

・気になったことを家で調べたいと言ってタブレット端末を持ち帰る場面が何度か見られた。進んで調べ学習に取り組める環境が整っている感じる。ICT機器が活用されることで、授業で学んだことを家庭学習でより深く学べる場が確保できていると思う。

1. 学校でのICT活用の現状

- (1) 授業でのICT活用は日常化。小学校がリードし、中学校が続く。
- (2) 高校での活用も増えているが、1人1台端末の整備が小中に比べて遅れている。
- (3) この1年で、「協働的な学び」におけるICT活用と教員の成果実感に伸び。
- (4) 少数だが、ICTを活用した新しい指導や学びが生まれつつある。

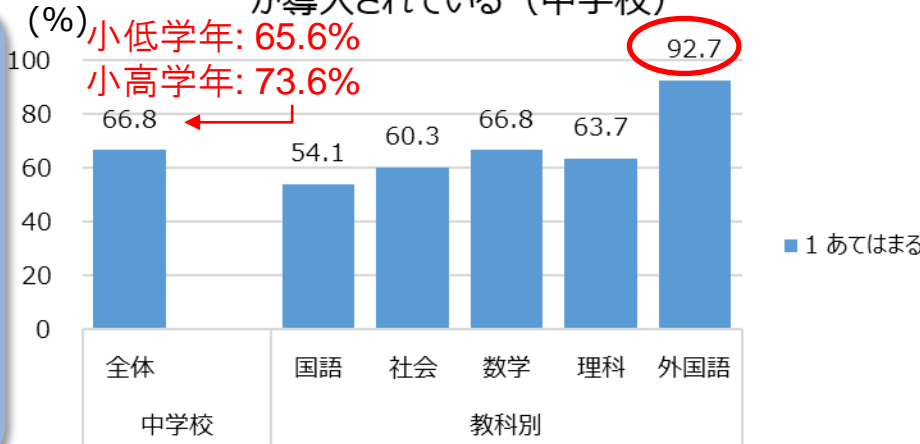
2. 英語指導での特徴やみえてきた課題・論点

- (1) 他教科と比べて、デジタル教科書は指導者・学習者とも充実。
- (2) 教員は活用しているものの、子どもの活用は伸びず。
- (3) 協働的な学びの全体的な広まりの中で、英語教員の成果実感は高どまり。
- (4) ICTを活用した新しい指導や学びの兆しが見られるものの、期待されている遠隔授業の実施は1割前後にとどまる。

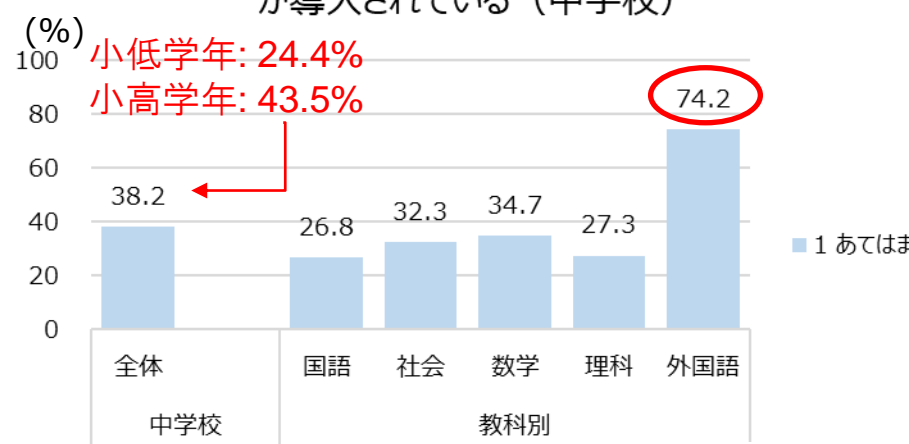
他教科と比べて、英語のデジタル教科書は充実している 特に中学校では、指導者・学習者ともに浸透している

中学校

担当する学年の教科で、指導者用デジタル教科書が導入されている（中学校）



担当する学年の教科で、学習者用デジタル教科書が導入されている（中学校）

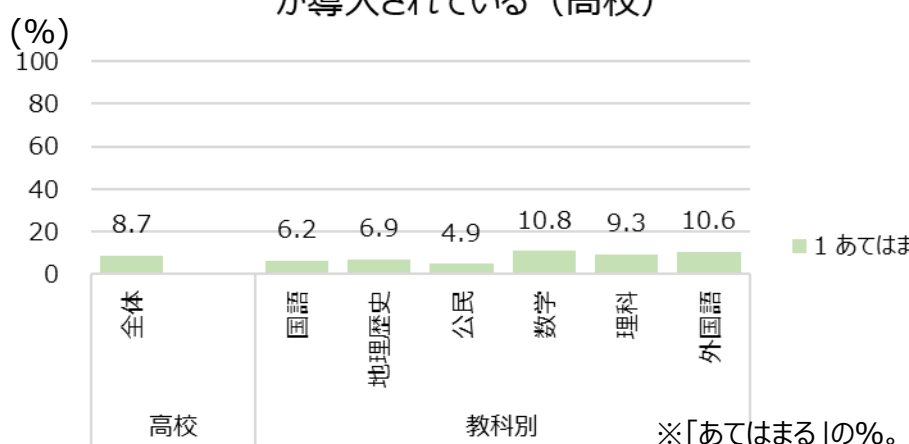


高校

担当する学年の教科で、指導者用デジタル教科書が導入されている（高校）



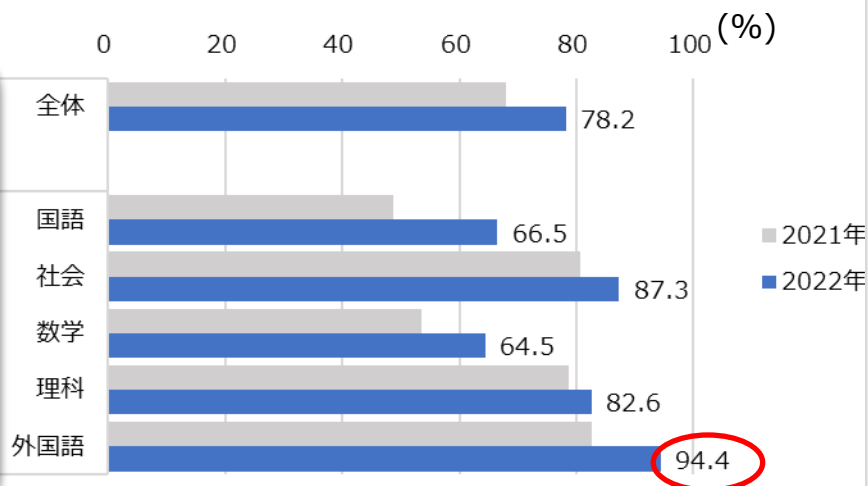
担当する学年の教科で、学習者用デジタル教科書が導入されている（高校）



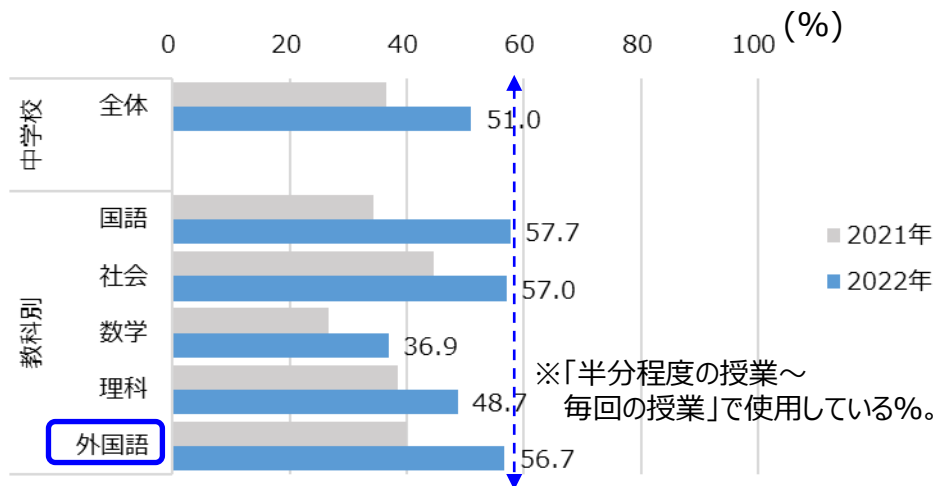
※「あてはまる」の%。

英語教員の多くは授業で活用しているが、子どもの活用は伸びていない

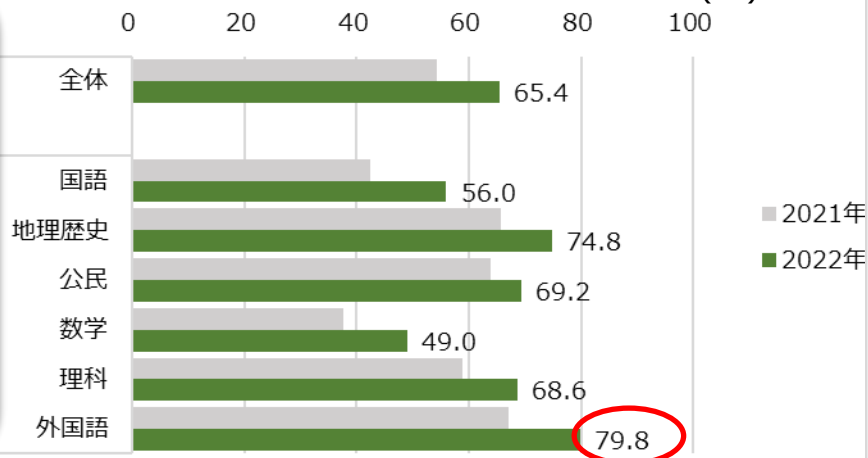
授業で「教員」が活用する頻度（中学校）



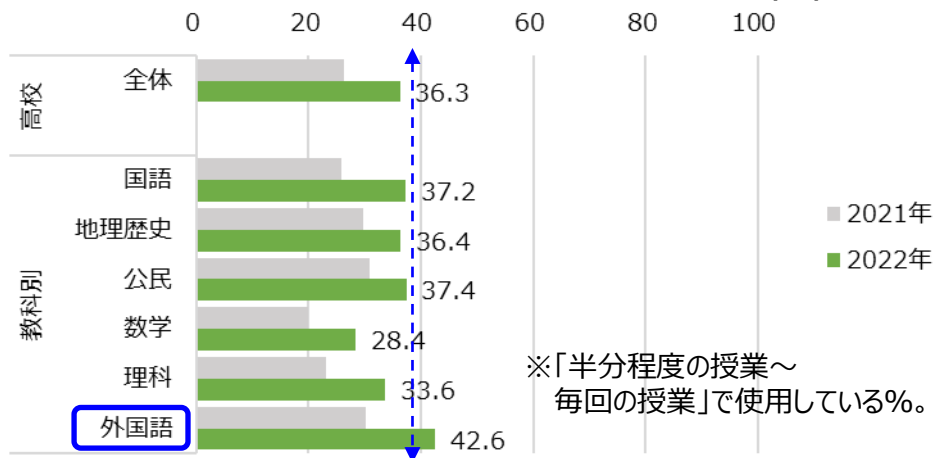
授業で「生徒」が活用する頻度（中学校）



授業で「教員」が活用する頻度（高校）



授業で「生徒」が活用する頻度（高校）



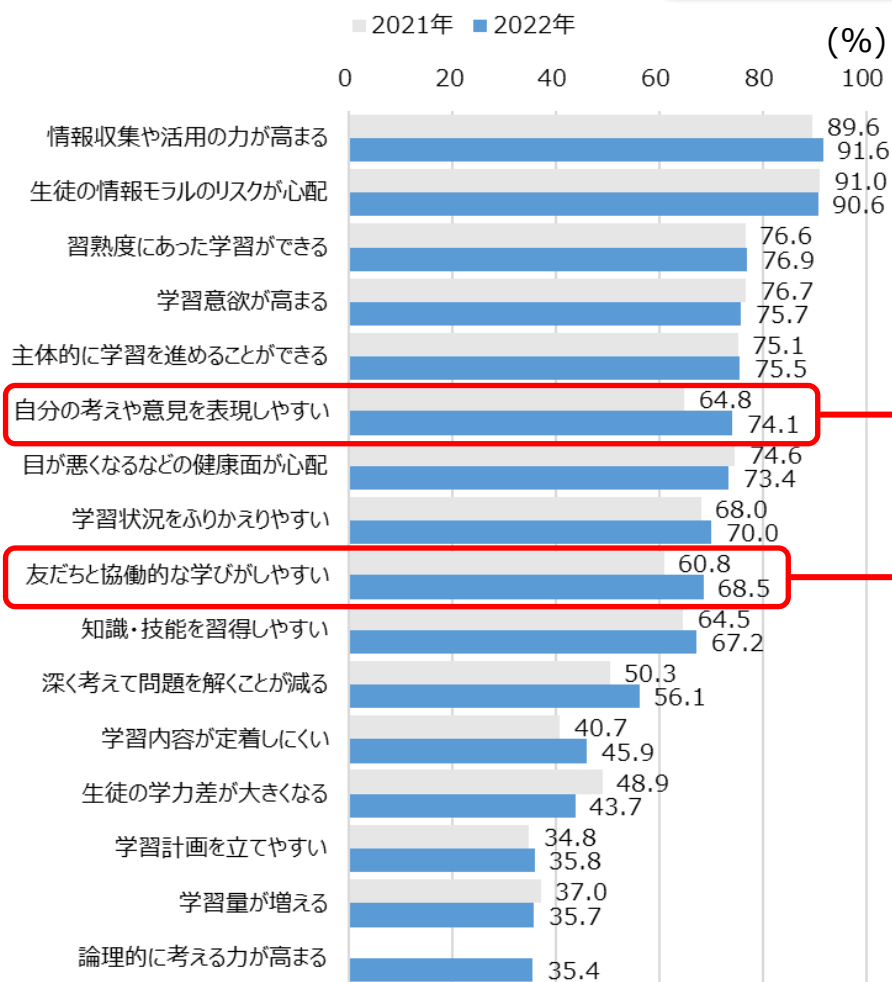
教科共通の活用シーンは「情報収集」「発表・話し合い」
 加えて英語では「写真や動画」「反復的な練習」での活用が多い



	国語		社会		数学		理科		外国語	
	比率(%)	順位	比率(%)	順位	比率(%)	順位	比率(%)	順位	比率(%)	順位
インターネットを用いて情報収集を行う	88.8	①	85.0	①	49.9	②	79.8	①	85.1	①
グループや学級全体での発表・話し合いを行う	71.1	③	69.9	②	56.2	①	67.6	②	64.0	②
複数の意見・考えを議論・整理する	68.0	④	66.2	③	48.5	③	61.3	④	49.7	⑥
資料を作成したり、作品を制作したりする	75.5	②	57.0	④	36.3	⑧	55.7	⑥	63.0	③
写真や動画を撮影して学習に活用する	59.4	⑥	48.1	⑥	40.4	⑥	66.2	③	62.9	④
グループでの分担、協働による作品の制作を行う	59.6	⑤	50.4	⑤	31.3	⑩	48.2	⑦	48.4	⑦
シミュレーション(動画や3D映像など)を用いて理解を深める	31.5	⑥	47.2	⑦	43.5	⑤	57.5	⑤	39.3	⑨
学習した成果や考えたプロセスを記録・保管する	47.4	⑦	41.1	⑧	34.5	⑨	39.0	⑧	42.0	⑧
計算や英単語などの反復的な練習を行う	22.1	⑩	18.7	⑩	47.2	④	21.7	⑩	53.5	⑤
習熟度に応じた課題に個別に取り組む	30.0	⑨	26.4	⑨	38.2	⑦	28.2	⑨	38.6	⑩
遠隔地や海外の学校の生徒などと交流する	3.9	⑪	7.2	⑪	4.7	⑪	6.3	⑪	7.4	⑪

※数値は「よく行っている+ときどき行っている」の%。
 ※各教科別の比率が高い順に①②～⑪の順位をつけている。
 ※各教科別の上位3項目を橙色、上位5項目までを黄色で網掛けしている。

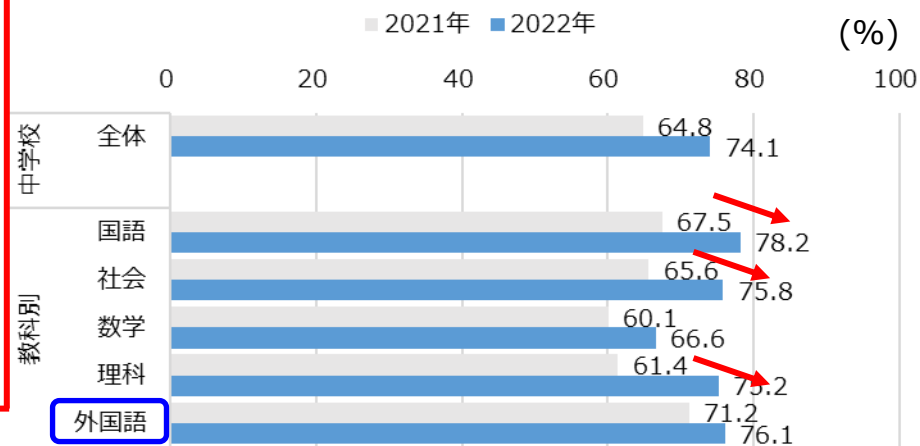
協働的な学びの全体的な広まりの中で、英語教員の成果実感に目立った伸びはみられず

 1人1台端末の「生徒」にとっての効果 **中学校**


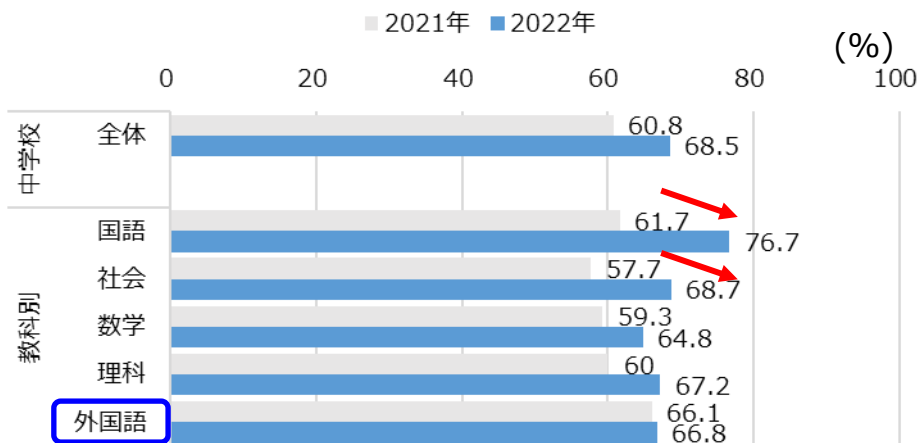
※「とてもそう思う+まあそう思う」の%。

中学校

自分の考えや意見を表現しやすい



友だちと協働的な学びがしやすい



英語指導においても、ICTを活用した新しい指導や学びの兆しがみられる

学校におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）

①これまでの指導や学びを
デジタルへ置き換えるレベル

②これまでの指導や学びを
根底から変化させ
革新をもたらすレベル

※高橋純(2021)「はじめての授業のデジタルトランスフォーメーション」等を参考にベネッセ教育総研で学校DXの段階を大きく2つに分けた。
※各コメントは「ICTが学校現場に浸透したことによる成功事例」への教員の回答例。バブルの大きさは大まかな件数をあらわす。

・英語の授業でデジタル教科書を使うことで、聴覚的、視覚的な情報を与える指導がしやすくなった。

・デジタル教科書(指導者用)を利用することにより、練習などする際の効率があがった。音声指導が、とてもやりやすくなった。

・教材等の共有、印刷物等がなくなることで負担が軽減した。

・その他多数

・1人1台のタブレット端末を使うことによって意見の共有をしやすくなった。なかなか手を挙げにくい生徒もタブレット端末に自分の意見を書くことはハードルが低いので普段あまり発言しない生徒の貴重な意見も吸い上げることができる。

・英語のスピーチを、各自が自宅で録画し、送信提出できるようになった。この課題を課すことにより、どのようなスピーキングを追求すればよいのかを各自が考え、見本を見て練習し、取り組めるようになった。

・遠隔交流授業が手軽にできるようになってきた。
・海外と簡単に交流できるようになった。

期待されている遠隔授業の実施は少数派

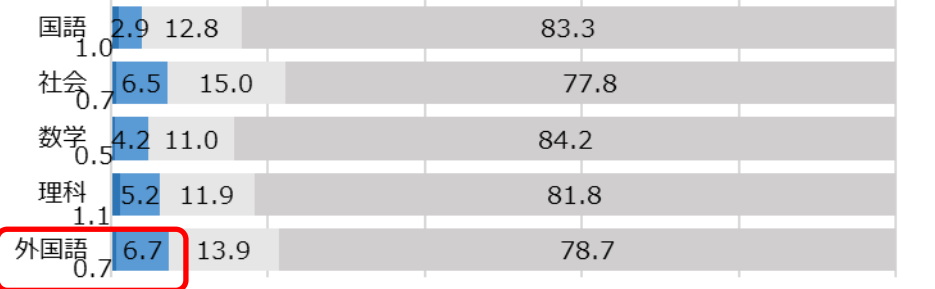
遠隔地や海外の学校の児童などと交流する (学校段階別)

■ 1 よく行っている ■ 2 ときどき行っている ■ 3 あまり行っていない ■ 4 まったく行っていない



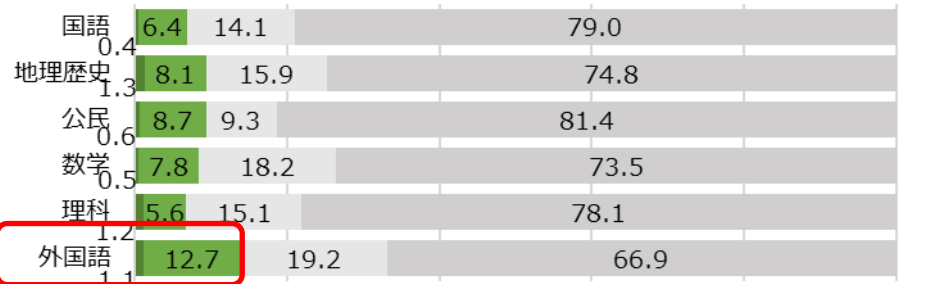
遠隔地や海外の学校の児童などと交流する (中学校の教科別)

■ 1 よく行っている ■ 2 ときどき行っている ■ 3 あまり行っていない ■ 4 まったく行っていない



(高校の教科別)

■ 1 よく行っている ■ 2 ときどき行っている ■ 3 あまり行っていない ■ 4 まったく行っていない



1. 学校でのICT活用の現状

- (1) 授業でのICT活用は日常化。小学校がリードし、中学校が続く。
- (2) 高校での活用も増えているが、1人1台端末の整備が小中に比べて遅れている。
- (3) この1年で、「協働的な学び」におけるICT活用と教員の成果実感に伸び。
- (4) 少数だが、ICTを活用した新しい指導や学びが生まれつつある。

2. 英語指導での特徴やみえてきた課題・論点

- (1) 他教科と比べて、デジタル教科書は指導者・学習者とも充実。
- (2) 教員は活用しているものの、子どもの活用は伸びず。
- (3) 協働的な学びの全体的な広まりの中で、英語教員の成果実感は高どまり。
- (4) ICTを活用した新しい指導や学びの兆しが見られるものの、期待されている遠隔授業の実施は1割前後にとどまる。

ご清聴ありがとうございました